

Title	「発表5」授業報告
Sub Title	
Author	村上, 絢乃(Murakami, Ayano)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2023
Jtitle	日本語と日本語教育 No.51 (2023. 3) ,p.123- 136
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	授業報告2
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20230300-0123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「発表5」授業報告

村上 絢乃

1. はじめに

日本語・日本文化教育センターの別科・日本語研修課程に設置されている科目群の一つに「技能別科目」がある。これは「読む・書く・聞く・話す」の四技能をそれぞれに特化して身に付ける学習を行うことを目的にしており、「文法」「作文」「文章講読」「会話」「発表」などの科目に分かれている。筆者はこのうちの一科目である「発表5」を2021年度春学期から2022年度秋学期までの4学期間にわたって担当した。この科目の対象レベルは中級前期である。毎学期様々な課題があったが、どの学期にも共通していたのは初級の学習内容が定着していない学生がいるということである。初級の学習内容で未習の項目がある学生、文型を知っていても実際に書いたり話したりすることに慣れていない学生が少なくないので、初級の復習や練習が必要なのである。

しかし、発表の科目で文法の復習に時間をかけることは難しく、また学生の学習歴等も様々で指導しにくい面がある。このようなことから、筆者は授業の中でできるだけ効率的に復習を行う方法はないかと考えるようになった。

そこで、本稿ではこれまでの授業を振り返るとともに、初級文型で特に復習が必要な項目を分析し、検討する。

2. 「発表5」授業概要

別科・日本語研修課程では入学時に受ける学習段階分けテストによっ

表1 「発表5」授業概要

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中級レベル以上の学生が自分の意見や経験をわかりやすく、自然に話せるようにする。 ・ 他の学生の発表を聞いて、質問をしたり、意見を言ったりできるようにする。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表のやり方や表現を学ぶ。 2. 300～400字で作文を書く。 3. 作文を覚えて、発表する。
教材	担当者作成教材
評価方法	授業活動、課題（作文、発表）、期末試験

て、各学生の学習段階が決められる。学習段階は1から9までである。初級は1～4レベル、中級は5A, 5B, 6A, 6Bレベル、上級は7～9レベルとなっている。

筆者が担当した「発表5」は中級前期の5Aレベルと5Bレベルを対象とした科目である。授業の概要を表1に示す。なお、2021年度春学期の科目名は「発表5A」だったが、対象レベルや授業概要はその他の学期と同様のため、本稿では21年春学期も含めて科目名を「発表5」と表記する。

授業は週1回1コマ（90分）である。授業回数は21年度は全13回、22年度は全14回であった。教材は担当者が作成し、毎回の授業で配布した。内容は各テーマで使える文型や表現例、作文の書き方等をまとめたものである。

表2は発表のテーマと目標である。全部で6つのテーマで発表を行った（2022年度春学期を除く）。第5回目の「○○か、○○か」については「オンライン授業か、教室での授業か」（21春）、「朝型か、夜型か」（21年秋）、「都会か、田舎か」（22春）というテーマをこちらで指定した。しかし、2022年度秋学期はテーマを指定せず、学生に自由に決めさせた。

2022年度春学期のみ6回目以降の予定を変更し、全部で7つのテーマで

表2 発表のテーマと目標

回	発表のテーマ	目標
①	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを日本語で説明する。 クラスの人に自分のことをよく知ってもらう。
②	私の町	<ul style="list-style-type: none"> 自分の町のことについて、説明する。 町の特徴について、例をあげて、わかりやすく説明する。 発表を聞く人が興味を持ち、行ってみたいという気持ちになるように、説明する。
③	私のおすすめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分がすすめたものや場所について、説明と理由をわかりやすくまとめて、話すことができる。 相手に興味を持ってもらえるような工夫ができる。
④	私の思い出	<ul style="list-style-type: none"> 過去の出来事をわかりやすく説明することができる。 その時の自分の気持ちを話すことができる。
⑤	〇〇か、〇〇か	二つのことを比べて、意見を言うことができる。
⑥	必要？不要？	最近流行っているものや話題になっている物事について、それが必要かどうか、理由とともに話すことができる。

表3 2022年度春学期の変更点

回	発表のテーマ	目標
⑥	〇〇の前と後	社会や環境の変化について、その前と後でどのように変わったか、比較しながら説明できる。
⑦	必要？不要？	最近流行っているものや話題になっている物事について、それが必要かどうか、理由とともに話すことができる。

発表を行った（表3参照）。

3. 授業形態と授業の進め方

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年度春学期から2022年度春学期までの3学期間はWeb会議システム「Zoom」を使用し、オンラインで授業を実施した。表1で示したように、授業は「1. 発表のやり方

や表現を学ぶ。」「2. 300～400字で作文を書く。」「3. 作文を覚えて、発表する。」という流れで進めたが、授業形態により方法を変えた点もあるため、ここではオンライン授業の場合と対面授業の場合に分けて、授業の進め方を述べる。

3-1. オンライン授業

オンライン授業では、以下の流れで授業を進めた。

- ①授業で発表のテーマを提示し、文型や表現を確認する。その後、学生は作文を書いて、提出する。
- ②教師は作文を添削し、返却する。
- ③授業で作文のフィードバックと発表の練習を行う。全体で共有すべき内容は授業の冒頭で説明し、その後は個別（一人10分程度）に指導する。学生は授業後に作文の清書と単語リストを提出する。
- ④授業で発表と質疑応答（一人10分程度）を行う。教師は授業後に発表の評価とコメントを送付する。

基本的に以上の流れで進めたが、履修者が多い場合は1回の授業で全員が発表を行うことが難しく、テーマの説明や作文の書き方の導入に時間を要する場合もあったため、状況に応じて授業での練習を行わないこともあった。

3-2. 対面授業

2022年度秋学期は対面授業が再開し、教室で授業を行った。授業の流れは以下の通りである。

- ①授業で発表のテーマを提示し、文型や表現を確認する。その際、テーマに関して意見交換をしたり、原稿作成や発表の際に注意すべき点等について話し合う。その後、学生は作文を書いて、提出する。

- ②教師は作文を添削し、返却する。
- ③授業で作文のフィードバックを行う。全体で共有すべき内容は授業の冒頭で説明し、その後は個別に指導する。フィードバックが終わった学生は授業内で清書をし、提出する。単語リストは宿題とし、授業後に作成して提出する。
- ④授業で発表と質疑応答（一人 10 分～15 程度）を行う。教師は授業後に発表の評価とコメントを送付する。

教室では個別に練習することが難しいため、授業中の練習は行わなかった。その代わりに、発表のテーマに関して話し合う時間を多く設けた。

4. 履修者数とレベル

先にも述べたように、「発表5」は中級前期の学生を対象とした科目であるため、5A レベルと 5B レベルの学生が履修ができる。また、隣接したレベル、つまり 4 レベルと 6 レベルの学生も履修が可能である。表 4 に各学期の学生数とレベルの内訳を示す。() 内の数字は継続生の人数である。継続生とは在籍期間が 2 学期以上の学生のことである。

表 4 履修者数とそのレベルの内訳

	21 春	21 秋	22 春	22 秋
5A レベル	5 (2)	5 (1)	4	5
5B レベル	2 (1)	6 (3)	3	2 (1)
6A レベル			1 (1)	2 (2)
計	7	11	8	9

どの学期も履修者は 10 名前後であった。4 レベルの学生も履修可能で

あるが、実際に履修した学生はいなかった。22年度は6レベルの学生も履修したが、全員が継続生であった。

履修者のレベルを見ると、本来の対象レベルである5レベルの学生が中心となっているが、授業開始後の作文や質疑応答での口頭能力を見ると、どの学期も初級の学習内容が定着していない学生が少なくなかった。特に新生はその傾向が強かった。その要因として、独学で学習したために未習の項目があること、文法は勉強したが実際に使う練習をしたことがないこと、文型は知っていても助詞や活用形が曖昧であることなどが挙げられる。作文や発表のフィードバックで各学生に復習が必要な点を伝えたが、なかなか改善しないことも多かった。授業中にしっかりと復習や練習ができればいいのだが、発表の科目で文法の復習に時間をかけることは難しく、また、学生のモチベーションにも影響する可能性がある。しかし、特に学生が間違いやすい文型を整理し、ポイントを絞って指導すれば、比較的効率よく復習を行うことができるのではないだろうか。

そこで、次の第5章では学生の作文から間違いの多い文型を抽出して分析し、復習項目を検討する。

5. 作文の分析と復習項目の検討

本章では、発表の原稿として学生が提出した作文を分析し、復習が必要な項目を検討する。まず、学期ごとの傾向を見てみる。

5-1. 各学期の傾向

表5は2021年度春学期の作文で特に間違いが見られた文型項目をまとめたものである。文型の提出順は『大学の日本語 初級ともだち Vol. 1, 2』（東京外国語大学出版社）を参考にした。これは、別科・日本語研修課程の初級（1～4レベル）の科目で使用されている教科書である。

また、個人が特定できないように、学生はABCで表記し、新生と継続生の別が分かるよう継続生を太字で示している。表内の数字は先に示し

表5 間違いが見られた文型項目 (2021 年度春学期)

課	文型	学生						
		5A レベル					5B レベル	
		A	B	C	D	E	F	G
3	[場所] でNをVます						②	③
5	A いかったです A いくなかったです			④	②			
5	…。しかし、… …が、…			④		②		④
6	[場所] にNが {あります/ います}		④		④	⑤		①
9	て形	①				④	⑤	④
10	Nに(入ります) Nを(出ます)				①	①		①
11	Vたり、V2たりします			③			①	①
15	自他動詞	②				④⑥	②④	
15	〈普通形〉ので、…				②		③	①

た表2、表3のテーマの順番に基づいている。例えば、①は1回目のテーマ「自己紹介」の作文、②は2回目のテーマ「私の町」の作文である。

これを見ると、継続生は比較的初級の間違いが少なく、間違いがあっても学期前半に集中していることが分かる。継続生は2020年度秋学期に初級レベルの科目を履修しているため、新入生と比べて学習方法や運用力が身に付いていたことが影響していると考えられる。

特に間違いが多かった文型は「[場所] にNが [あります/います]」である。助詞「に/で」、動詞「いる/ある」に注意できていない学生が目立った。助詞に関して言えば、「NにV」「NをV」が整理できていない学生もいた。例えば、以下のような間違いが見られた。

- ・私は去年会計学部の学生として大学から卒業しました。
- ・去年の7月に大学から卒業して、現在は慶應大学大学院を目指して勉強しています。
- ・将来日本の大学院を進学して、研究したいです。

以上の文はすべて新入生の第1回目の作文から取り出したものである。このように、新入生は基本的な文法事項が整理できていない場合があるので、間違いやすい助詞を早い段階で確認しておく、効果的なのではないだろうか。

次に、2021年度秋学期の傾向を見てみよう（表6参照）。この学期は履修者が比較的多かったため、間違いが見られた項目も他の学期より多くなっている。継続生は4名いたが余裕のある学生はおらず、新入生と大きな差はなかった。

ここでも間違いが一番多かったのは「[場所]にNが[あります/います]」である。特に第2回目の作文で間違える学生が目立った。

次に多かったのは、「〈普通形〉と思います」「〈普通形〉ので、…」である。実際に学生が書いた文を以下に挙げる。

- ・健康を考えて、朝早く起きて、夜早く寝たほうがいいだと思います。
- ・しかし、ここに実は同じ基準がありませんと思います。
- ・日月潭は形が太陽と月のように見える湖ので、このように呼ばれています。
- ・香港は雪が降りませんので、小さい頃からずっと雪を見たかったです。

表6 間違いが見られた文型項目 (2021 年度秋学期)

課	文型	学生									
		5A レベル					5B レベル				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	N の N							②		② ③	
3	[場所] で N を V ます					①		③			
4	A な N				③				③		
5	…。しかし、… …が、…		② ③	④		③④ ⑤					
5	N は A いくて 、 …						⑥				⑤
6	[場所] に N が あ ります / います	①		② ④	⑥	⑥	②		②		②
9	て形	⑥					①	③			
10	A いく / A な- に / N に な ります						⑤		②		
10	{Vdic. / VN の} 前に、…								②	⑥	
11	{Vdic. / V た} 時、…	⑤	①				⑤				
11	〈普通形〉と思 います	⑤	⑤			①④			③		⑥
11	V1 たり、V2 たり します				⑥			⑤	⑥		
12	〈普通形〉から です				④	⑤					
14	N が できます N を Vdic. こと ができます				④						②
14	可能形				②			④		③	
15	自他動詞					⑤⑥	⑥				⑤
15	〈普通形〉の で、…							④	①② ⑤	①③ ⑤	① ②
16	〈普通形〉ん です				②			④			
18	〈意向形〉と 思っています						⑤				⑥
19	Vdic. なら、 …			②		②	②	③			
19	N1 も〈普通 形〉し、 N2 も…				⑤		③				
22	受け身形			⑥			⑤		②		②

文型「～ので」については、話し言葉では「〈丁寧形〉ので」で使われる場合もあるが、書き言葉では普通形を使うよう初回の授業で説明し、プリントも配布したのだが、改善するまでに時間がかかった。

更に、以下のように、可能形と受け身形が不正確な学生も多かった。

- ・コースの幅も広くて、初心者でも安心して滑られます。
- ・海外では高く売れているブランドが現地では安く売れていますので、とてもいいです。

次に、2022年度春学期の傾向を表7にまとめる。ここでも「〈普通形〉だと思います」「〈普通形〉ので、…」の間違いが多く見られた。さらに、「…が、…」の使い方が正しくない学生も目立った。

- ・冬と秋はあまり寒くないが、夏と春はなかなか暑いです。
- ・その人は忙しそうに見えたが、助けてくれて、本当に感動しました。文化や言葉は違うけど、人の親切さと温かさを感じました。

文型「～ので」と同様に、「…が、…。」についても初回の授業で使い方を確認したが、その後もなかなか正しく定着しなかった。

この学期は9名中8名が新生であったが、表を見ると学生Bは比較的時間違いが少ないことが分かる。この学生は新学期の履修指導の際、日本語でコミュニケーションを取ることが難しかったため、復習のために初級の科目も履修することを勧めた。それで、4レベルの作文の授業を履修していたのある。間違いが少なかったのは、5レベルの学習と並行して、初級の復習にも時間をかけた結果であろう。この学生のように、中級レベルでも初級の定着が弱い学生には4レベルの科目も取るよう勧めているが、アドバイス通りに履修する学生は少ないのが現状である。

表7 間違いが見られた文型項目（2022年度春学期）

課	文型	学生							
		5A レベル				5B レベル			6A レベル
		A	B	C	D	E	F	G	H
1	N の N			②					②
3	[場所] で N を V ます	⑤			③	③			
4	A は N1 で、N2 で す/でした	⑥			①				
5	…。しかし、… …が、…	⑤⑥			②④⑦	②④⑦	④⑤		
8	どこかへ行きます か —いいえ、どこへ も行きません	②						⑤	
11	〈普通形〉と思 います		④	③		⑦		②	①
12	〈普通形〉からです	⑦	⑤				⑤		
14	可能形	③④		④					
15	自他動詞					⑦	③		
15	〈普通形〉ので、…	③			①	④			②⑤
16	N1 は N2 が…。	⑤	④				⑤		⑤
21	{Vdic. の/VN} に {V (使います) / A (必要です)}						⑤		⑤
22	受け身形	⑥				②			

最後に、2022 秋学期の傾向を表 8 に示す。この学期も「〈普通形〉の
で、…」 「…が、…」 の間違いが多く見られた。

て形や意向形など、他にも学生によって様々な間違いが見られたが、普
通形、可能形、受け身形は特に復習が必要な学生の割合が高かった。その
ため、これらの文型にポイントを絞って復習を行うと、効果的なのではな
いかと考える。

また、先にも述べたように、文型「～ので」「…が、…」については、初
回授業で使い方を説明し、書き言葉と話し言葉の違いをまとめた資料を配

表8 間違いが見られた文型項目 (2022 年度秋学期)

課	文型	学生								
		5A レベル					5B レベル		6A レベル	
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
5	…。しかし、… …が、…	④	①③⑤			①	③⑤			
6	[場所]にNが {あります/います}		②		⑥					
8	N1はVますが、 N2はVません	⑤	②							
9	[場所]へ/に V ます/VN に行き ます				④	①				
12	連体修飾		④						④	
12	〈普通形〉からです	⑤	⑤							
15	自他動詞	④		①⑤⑥	④					
15	〈普通形〉ので、…	⑤⑥	①④⑤	①②③						

布したにもかかわらず、どの学期もなかなか正しく定着しなかった。

したがって、今後はクラス全体で繰り返し復習する必要があると考える。

5-2. 全体の傾向

5-1で学期別の傾向を分析したが、その結果「〈普通形〉ので、…。」「…が、…。」等、学生がよく間違える項目がいくつかあることが分かった。では、特にどのような文型が間違いやすいのだろうか。表9に傾向をまとめると。

学期中、学生(2人以上)の作文に間違いが見られた項目を灰色で示している。これを見ると、どの学期も共通しているのは、「…。しかし、…/…が、…。」、「〈普通形〉ので、…」であることが分かる。次に多いのは「[場所]でNをVます」、「[場所]にNが {あります/います}」、「〈普通形〉からです」、「自他動詞」である。

「〈普通形〉からです」については、新入生の作文にのみ間違いが見られた。以下に例を挙げる。

表9 間違いが見られた文型項目（4学期分のまとめ）

課	文型	21 春	21 秋	22 春	22 秋
1	NのN				
3	[場所]でNをVます				
5	…。しかし、… …が、…				
6	[場所]にNが{あります/います}				
9	て形				
11	〈普通形〉と思います				
11	V1たり、V2たりします				
12	〈普通形〉からです				
14	可能形				
15	自他動詞				
15	〈普通形〉ので、…				
22	受け身形				

- ・また、交通が便利からです。
- ・なぜなら、電子決済はとても便利からです。
- ・帰るのはいつも一番悲しいことからです。

以上のように、接続の誤りが多く、学期後半になっても正しく定着していない学生がいた。先にも述べたように、普通形を使う文型は正しく定着していない学生が多い傾向にあるので、復習に時間をかける必要があると考える。

自他動詞は「続ける／続く」「開ける／開く」「出す／出る」「(時間を)かける／(時間が)かかる」の間違いがよく見られた。自他動詞については中級以降も復習が必要な項目であるため、初級に限ったことではない

が、作文や発表の前によく使われる動詞を整理しておくといいのではないだろうか。

6. まとめ

本稿では「発表5」の授業を振り返るとともに、作文の間違いを分析し、特に復習が必要な項目について検討した。「発表5」は中級の科目であり、主な目標は口頭発表能力を身に付けることである。時間も限られているため、初級の復習をどこまで扱うか迷うところであるが、これまでの4学期を振り返ると、基本的な文法事項の復習は口頭発表能力の向上のためにも必要であると考え。今後の授業では、今回検討した内容を中心に復習を進め、その効果を検証したい。

また、学生によって定着度は様々であるため、復習にかける時間や具体的な方法の詳細は更に検討する必要があるだろう。学習歴や他の履修科目とのバランスを見て、場合によっては個別対応が効果的である可能性もある。この点も今後の課題としたい。

参考文献

『大学の日本語初級ともだち Vol. 1, 2』東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 (2017)
東京外国語出版会